

Silk Central 12.1

リリースノート

Micro Focus
575 Anton Blvd., Suite 510
Costa Mesa, CA 92626

Copyright © 2012 Micro Focus. All rights reserved. Silk Central は Borland Software Corporation に由来する成果物を含んでいます, Copyright © 2012 Borland Software Corporation (a Micro Focus company).

MICRO FOCUS, Micro Focus ロゴ、及びその他は Micro Focus IP Development Limited またはその米国、英国、その他の国に存在する子会社・関連会社の商標または登録商標です。

その他、記載の各名称は、各所有社の知的所有財産です。

2012-12-17

目次

Silk Central 12.1 リリース ノート	4
Silk Central 12.1 の新機能	5
クライアントデータの切り離し	5
システム管理	5
手動テストの強化	5
テストブック	6
Microsoft Office Word レポート テンプレート	6
.NET アプリケーションのコード分析	6
プロジェクトのエクスポートおよびインポート	6
Issue Manager 機能拡張	6
MSTest パラメータ	7
実行のエラーで停止	7
結果ファイルを削除する	7
Java 64 ビット コード分析	7
統合の強化	7
Caliber 11.0 (ホットフィックス 1 が必要)	7
StarTeam 12.5	7
StarTeam 13.0	7
IBM Rational DOORS バージョン 9.4	7
Jira 5	8
サポートされなくなる機能	9
将来のリリースではサポートされなくなる機能について	10
テスト済みおよびサポートされているソフトウェア	11
システム要件と事前要件	13

Silk Central 12.1 リリースノート

バージョン 12.1

2012年12月

以下の注記には、ヘルプには記載されていない重要な情報が含まれている場合があります。注記にはすべて目を通してください。

インストール、デプロイメント、およびライセンス管理に関する情報については、『[Silk Central インストールヘルプ](#)』を参照してください。

さらに支援が必要な場合は、[カスタマーケア](#) にアクセスしてください。

Silk Central 12.1 の新機能

Silk Central 12.1 では、大幅な機能拡張と変更が導入されました。

クライアントデータの切り離し

クライアントデータの切り離しで、いくつかの独立クライアントを 1 つの Silk Central インストールでホストでき、これによってデータセキュリティとメンテナンスの軽減という利点をもたらします。特定のクライアントのユーザーのみが、クライアントのデータにアクセスできます。

古い Silk Central バージョンからアップグレードする場合、標準 Silk Central ユーザーとしては変更点に気付かないでしょう。ただし、クライアントを管理するユーザーは、新たに作られた UI である **システム管理** 領域について理解する必要があります。

システム管理

新しい **システム管理** 領域は、既知の Silk Central UI とは別の独立した領域です。Silk Central システム管理者はこの領域で、Silk Central の主要な設定を行うことができます。たとえば、データベース接続の管理、クライアントの管理、チャートサーバー、電子メールサーバーおよびプロキシ接続の設定、診断情報やシステムログファイルの分析などを実行できます。

これらの管理タスクは Silk Central システム管理者が担当します。このユーザーのみが **システム管理** 領域にアクセスできます。ただし、Silk Central システム管理者には、特定のクライアントや既知の Silk Central UI にはアクセスできません。


手動テストの強化

強化された手動テストでは、これまでの Web ベースの手動テストの機能と Manual Testing Client (MTC) が組み合わせられて、1 つの総合的な発展ソリューションになっています。テストに関連する情報にアクセスできるだけでなく、洗練された結果取得とコンテキスト内での問題作成を可能にする一方で、テストには関係しない他の分散情報をすべて非表示にすることで、1 つのテストを効率的に実行できるようにすることに重点が置かれています。

新しい機能は、テスト中のアプリケーション (AUT) に並べて配置できる特別なブラウザ ウィンドウ (**手動テスト** ウィンドウ) で提供されるので、ウィンドウ切り替えの手間がなくなります。さらに、クライアント側でのインストールを必要としない、最先端の完全 Web ベースソリューションになっています。組み込みスクリーンキャプチャとビデオ録画機能の利用とコード分析データの収集も、Java をインストールするだけで実行できます。

手動テスト担当者として、上から下まで **手動テスト** ウィンドウ内でテストステップを処理できます。ここでは、次の操作が可能です。

- 正常にステップを実行した場合にステップをチェックする
- 結果テキストを記入したり、問題を作成して割り当てたり、結果ファイルを添付したりする
- 画面イメージをキャプチャしたり、ビデオを録画したりする
- コード分析機能を利用する
- すべてのテスト関連情報にアクセスする

 **注目:** Manual Testing Client (MTC) は利用できなくなると同時に、オフライン テスト機能も利用できなくなります。ただし、オフライン テスト機能は、今後のいずれかのバージョンに新しい形で再導

入される予定です。このバージョンの Silk Central にアップグレードする前に、Manual Testing Client (MTC) で進行中の手動テストをすべて完了し、データが失われることがないようにしてください。

テストブック

テストブック は、手動テスト中に行われたすべてのアクティビティに関するリアルタイム更新を提供する、新しいダッシュボード パネルです。別のテスト サイクルや実行計画で誰が、いつ、何を行ったのかを表示し、テスト担当者との連携を簡単にします。

Microsoft Office Word レポート テンプレート

Microsoft Office Excel および BIRT の使用に加え、Silk Central では、テスト、ビルド、欠陥、要件の各データに関する Silk Central レポートで問い合わせられるデータを視覚化するために、電子メール マージの記入のように簡単な Microsoft Word のレポート テンプレートが使用可能になりました。

.NET アプリケーションのコード分析

Silk Central は .NET アプリケーション用のコード分析を提供します。この機能を使用するには、Silk Central に同梱の DevPartner .NET コード カバレッジ コンポーネントをインストールします。メニューで **ヘルプ > ツール** をクリックし、**Windows コード分析フレームワーク** をダウンロードして、このセットアップのすべてのコンポーネントをインストールします。Silk Central 12.1 では、新しいバージョンの DevPartner .NET コード カバレッジ コンポーネントが提供されます。これらのコンポーネントは、32 ビット アプリケーションだけでなく、64 ビット アプリケーションからのコード カバレッジ取得をサポートします。

プロジェクトのエクスポートおよびインポート

Silk Central プロジェクトはエクスポートして、Silk Central 外部にプロジェクトデータをアーカイブ化することができるようになりました。データ、すべての結果、レポートなどを表示するために、プロジェクトを再インポートできます。

プロジェクトデータをインポートするときは、データのエクスポートに使用したのと同じ Silk Central バージョンおよび同じデータベースバージョンを使用する必要があります。ただし、プロジェクトデータを、データのエクスポートに使用したのと同じデータベース サーバーまたは別のデータベース サーバーにインポートすることができます。

Issue Manager 機能拡張

Silk Central プロジェクトを新規作成するとき、Issue Manager プロジェクトを直接統合できるようになりました。以前 Silk Central に広がっていたすべての必須ステップは、1 つのウィザードにマージされました。このウィザードには、プロジェクトに割り当てられたすべてのユーザー、あるいは今後プロジェクトに割り当てられるすべてのユーザーに対する受信箱の自動作成も備えています。

MSTest パラメータ

MSTest 実行に渡されるパラメータは、Silk Test Silk4Net のサポート向上のために導入および強化されました。パラメータは環境変数として設定されます。テスト内では、パラメータの値に `Environment.GetEnvironmentVariable("myParam")` を使用してアクセスできます。

実行のエラーで停止

実行計画のデプロイメント セクションで、最初に失敗したテストで、最初に実行されなかったテストで、または最初に失敗したか実行されなかったテストで、実行をただちに停止するかどうかを指定できるようになりました。

結果ファイルを削除する

実行 (結果ファイルや実行に属する他のすべての項目および情報を含む) を削除するかどうか、または実行の結果ファイルのみを削除するかどうかを決定できるようになりました。結果ファイルは、ビデオや画面イメージのようにデータベースのストレージを大量に必要とするファイルとなる場合があります。結果ファイルのみを削除すると、データベースをクリーンアップしてストレージ容量を開放することができますが、同時に実行に関する基本的な情報はすべて保存されたままになります。

Java 64 ビット コード分析

以前の Java コード分析ソリューションは、32 ビットおよび 64 ビットをサポートするプラットフォーム独立ソリューションに置き換わりました。

統合の強化

このセクションは、Silk Central で行った統合の強化の一覧を提供します。

Caliber 11.0 (ホットフィックス 1 が必要)

Silk Central は Caliber 11.0 (ホットフィックス 1 が必要) をサポートするようになりました。

StarTeam 12.5

Silk Central は StarTeam 12.5 をサポートするようになりました。

StarTeam 13.0

Silk Central は StarTeam 13.0 をサポートするようになりました。

IBM Rational DOORS バージョン 9.4

Silk Central で、IBM Rational DOORS バージョン 9.4 がサポートされるようになりました。

Jira 5

Jira に対するサポートは、最新バージョンの Jira に対するサポートに更新されました。更新は、必須フィールドの考慮、問題統計および入力済みフィールド (たとえば、コンボボックス) の更新など、ユーザビリティとパフォーマンス強化につながっています。

サポートされなくなる機能

このトピックでは、Silk Central 12.1 ではサポートされなくなる機能を示します。

Silk Test テスト計画のアップロード

Silk Test から Silk Central への計画のアップロードはサポートされなくなります。Silk Central Test Manager 2009 で *Silk Test* テスト計画テスト タイプが導入されたため、Silk Test から Silk Central に計画をアップロードする必要がなくなり、またこの操作は推奨されなくなりました。この新しいテストタイプを使用することによって、Silk Test で作成される計画ファイル構造が Silk Test テスト計画ファイルの実行に合わせて動的に維持管理されるため、メンテナンスの労力が軽減されます。

Manual Testing Client

Manual Testing Client は Silk Central に同梱されなくなります。手動テスト機能は **手動テスト** ウィンドウに移動されました。この機能の詳細については、このドキュメントの「新機能」セクションを参照してください。

内部問題プロファイル

Silk Central テスト管理部分の内部問題追跡機能は削除されました。Issue Manager は、Silk Central の発展的問題追跡ソリューションになりました。内部問題追跡プロファイルで作成された既存の問題は引き続き利用可能で、これらの問題を編集することができます。ただし、内部問題を新規作成することはできません。問題の追跡には Issue Manager を使用してください。

Upload Manager

Silk Central では、**Upload Manager** がサポートされなくなります。データベースをアップグレードするとき、**ファイルプール** からすべてのファイルがアプリケーションサーバーに保存されます (例: C:\¥ProgramData¥SilkCentral)。ファイルは、FilePool_exported_on という名前のフォルダに保存されません。

ファイルプール

Silk Central では、**ファイルプール** がサポートされなくなります。ファイルプールとは、Silk Performer の .ltz ファイルを Silk Central にアップロードするときに使用されていたものです。この Silk Performer の機能が削除されたため、**ファイルプール** も削除されました。データベースをアップグレードするとき、**ファイルプール** からすべてのファイルがアプリケーションサーバーに保存されます (例: C:\¥ProgramData¥SilkCentral)。ファイルは、FilePool_exported_on という名前のフォルダに保存されません。

将来のリリースではサポートされなくなる機能について

このセクションでは、将来のリリースではサポートされなくなる予定の Silk Central の機能を示します。

データ駆動型オプション

将来のリリースでは、異なる入力データを用いたテストを実行する機能が簡略化されます。異なるデータの行は **テスト** 領域で表示されなくなり、結果領域のみで表示されるようになります。失敗した単一データ行を再実行することは可能です。

リンクされたテスト コンテナ

将来のリリースでは、リンクされたテスト コンテナは削除されます。Silk Central におけるこの機能の主な目的は、Silk Test Classic 計画ファイルのインポートをサポートすることでしたが、テストパッケージ機能を使用することによって、実行するたびに Silk Central のテスト構造が更新されるためメンテナンス作業を軽減することができ、より良く Silk Test Classic 計画ファイル テスト タイプをサポートすることができます。

混在した実行計画

将来のリリースでは、自動実行計画で 1 つの実行計画に自動テストと手動テストを混在させることはサポートされなくなります。手動テストと自動テストのより洗練された組み合わせは、依存関係によって実現可能です。

古い要件 Web サービス

将来のリリースでは、古い要件 Web サービスはサポートされなくなる予定です。要件 Web サービスは同等の機能を持っており、今後も定期的にメンテナンスされます。

Lab Manager とのインテグレーション

将来のリリースでは、Lab Manager とのインテグレーションはサポートされなくなる予定です。Silk Central では、現在の Lab Manager の機能に代わる新機能を提供します。

Windows サービスとして実行サーバーを起動/実行する

将来には、Windows サービスとして実行サーバーを実行するオプションは削除されます。これは、この機能がさまざまなテスト タイプのすべての機能をサポートするわけではなく、昔から存在するという理由だけで残されているためです。

テスト済みおよびサポートされているソフトウェア

このセクションでは、Silk Central 12.1 がテストされたソフトウェア、および Silk Central がサポートするソフトウェアの一覧を示します。

アプリケーション、フロントエンド、実行、およびチャートの各サーバーは、特に記載がない場合、32 ビットオペレーティングシステムの構成で検証されています。64 ビットの構成もサポートされますが、サービスが 32 ビット JVM に基づいているため、パフォーマンスは向上しません。

サポートされるオペレーティングシステム

- Windows Server 2003 R2 サービスパック 2
- Windows Server 2008 R2 サービスパック 1 64 ビット
- Windows XP サービスパック 3
- Windows XP 64 ビット サービスパック 1 (実行サーバー)
- Windows Vista Ultimate 32 ビット (実行サーバー)
- Windows 7 32 ビット/64 ビット サービスパック 1 (実行サーバー)

サポートされる Linux オペレーティングシステム

Silk Central は、Linux オペレーティングシステムを実行サーバーに限りサポートします。

- Debian
- Redhat Enterprise Linux
- Suse Linux
- Ubuntu

サポートされる Web ブラウザ

- Google Chrome
- Internet Explorer 8
- Internet Explorer 9
- Mozilla Firefox

サポートされる Web サーバー

- IIS 6 32 ビット/64 ビット
- IIS 7 32 ビット/64 ビット
- Micro Focus スタンドアロン Web サーバー (Tomcat)

サポートされるデータベース管理システム

- Microsoft SQL Server 2005 サービスパック 3
- Microsoft SQL Server 2008 R2 サービスパック 2
- Microsoft SQL Server 2012
- Oracle 10g (バージョン 10.2.0.5)
- Oracle 11g (バージョン 11.2.0.3)

サポートされる統合された Micro Focus ソフトウェア

- CaliberRDM 10.1
- CaliberRM 2008 SP1 (最新のホットフィックスが必要)
- CaliberRM 10.1
- Caliber 11.0 (ホットフィックス 1 が必要)
- Silk Performer 9
- Silk Performer 9.5
- Silk Test 2011
- Silk Test 13.5
- StarTeam 12.5
- StarTeam 13.0
- Silk TestPartner 6.3

サポートされる統合されたサードパーティ ソフトウェア

- Bugzilla 4.0
- Compuware Quality Manager (Changepoint 2010 SP1、Changepoint 2009、Changepoint 2009 SP2)
- IBM Rational ClearQuest 2003.06.15.734.000
- IBM Rational DOORS バージョン 9.3
- IBM Rational DOORS バージョン 9.4
- IBM Rational Requisite Pro 7.0.0.0
- JIRA 4.4
- JIRA 5
- JUnit 4.4 以降
- Microsoft Office Excel (.xlsx) (テストのインポート用)
- Microsoft Office Word (.doc、.docx) (要件のインポート用)
- Rally
- SAP Solution Manager 7.1
- Subversion 1.6.x
- Team Foundation Server 2010
- VersionOne Enterprise Edition
- VMware vCenter Lab Manager 4.0.4

サポートされる Java

- Java Development Kit (JDK) 6 以降
- Java Runtime Environment (JRE) 6 以降

システム要件と事前要件

サーバー システムの要件

アプリケーション、フロントエンド、実行、およびチャートの各サーバーは、特に記載がない場合、32 ビットオペレーティングシステムの構成で検証されています。64 ビットの構成もサポートされますが、サービスが 32 ビット JVM に基づいているため、パフォーマンスは向上しません。

システム対象	要件
CPU	Intel Core i5、または同等の CPU
メモリ	最低 4 GB
空きディスク容量	最低 30 GB、データベース サーバーを除く
ネットワーク	100 Mbit
フロントエンド、アプリケーション、およびチャートの各サーバーのオペレーティングシステム	<ul style="list-style-type: none">• Windows Server 2003 R2 サービスパック 2• Windows Server 2008• Windows Server 2008 R2 サービスパック 1 64 ビット
実行サーバーのオペレーティングシステム	<ul style="list-style-type: none">• Windows XP サービスパック 2 以降• Windows XP 64 ビット サービスパック 1 (実行サーバー)• Windows Server 2003 R2 サービスパック 2• Windows Vista Ultimate Edition 32 ビット• Windows 7 32 ビット サービスパック 1• Windows 7 64 ビット サービスパック 1• Windows Server 2008• Windows Server 2008 R2 サービスパック 1 64 ビット
Web サーバー	<ul style="list-style-type: none">• Tomcat• IIS• Apache、ロード バランサとして使用
データベース管理システム	<ul style="list-style-type: none">• Microsoft SQL Server 2005 サービスパック 3• Microsoft SQL Server 2008 R2 サービスパック 2• Microsoft SQL Server 2012• Oracle 10g (バージョン 10.2.0.5)• Oracle 11g (バージョン 11.2.0.3)
電源供給	停電時のリスクを減少するため、すべての環境に対する無停電電源装置 (UPS)



注: Silk Central をエンタープライズ システムとしてインストールするには、Silk Central の各サーバーを個別のマシン上にインストールします。これらサーバーには、アプリケーション サーバー、フロントエンド サーバー、チャート サーバー、実行サーバー、および、データベース システムなどが含まれます。この方法については、『*Silk Central 12.1* インストール ヘルプ』の「カスタム インストール」に概要が記載されています。これらのコンポーネントは、好きな組み合わせで、複数のマシン上にインストールすることが可能です。

Silk Central の最適な構成の詳細については、テクニカル サポートまたはテクニカル アカウント チームにお問い合わせください。

実行サーバーの要件

実行サーバーに対する実際の要件と前提条件は、テスト対象のアプリケーション (AUT) やテストのタイプに依存します。

負荷テストについては、Silk Performer の環境要件を参照してください。最小限の構成での負荷テストは、不正確な結果につながります。

機能テストについては、Silk Test の環境要件を参照してください。Web ブラウザのリプレイなど、集中的なテストについては、最小 1024 MB のメイン メモリが推奨されます。

仮想化

Silk Central は仮想インフラストラクチャ環境 (たとえば、VMware ESX Server) での実行がテストされています。最適なパフォーマンスのためには、物理ハードウェアを使用することをお勧めします。

クライアント側のシステム要件

システム対象	要件
プロセッサ	Intel Core i3、または同等の CPU
メモリ	1 GB
空きディスク容量	1 GB
Web ブラウザ	<ul style="list-style-type: none">Windows Internet Explorer 8Windows Internet Explorer 9Mozilla FirefoxGoogle Chrome